

第13回 ミシェル・オークレール(全2回)

その1 バロック音楽 及 古典派音楽



その芸風から「女ティボー」と呼ばれたミシェル・オークレールは1924年11月生まれのパリジェンヌ。パリ音楽院に入学し、同院を首席で卒業するにあたり、かのジャック・ティボーが卒業演奏の指揮を買って出たという程、彼女の才能を愛でていた。

1943年(18歳)ロン＝ティボー国際コンクールで優勝。
1945年(20歳)ジュネーブ国際コンクールで優勝。
欧州内で演奏活動をする一方、戦後、米国、ソ連に招かれ絶賛を博した。

1950年代後半から1960年代前半にかけて録音も行ったが、左手故障の為40歳前に現役を引退した為、録音は少ない。

その後パリ音楽院で教鞭を執るなど後進の指導にあたり、日本でも1977年(昭和52年)桐朋学園に招聘されてマスターコースを開いている。

2005年6月パリで死す。

5歳年長のパリジェンヌ ジネット・ヌヴーとは好対照の演奏スタイルで、楚々として華麗な響きは多くの人に愛され続けている。

演奏曲目

1. モーツァルト ヴァイオリン協奏曲 第5番「トルコ風」第3楽章から (映像)
同 ヴァイオリン協奏曲 第4番 (指揮)マルセル・クーロー
2. ベートーヴェン ヴァイオリン・ソナタ 第5番「春」(p)ジュヌヴィエーヴ・ジョワ
3. ルクレール ヴァイオリン協奏曲 イ長調 作品7-6 (指揮)リステンパルト
ルクレールの協奏曲の魅力を知らしめた、彼女の1950年代を代表する録音。
4. J.S. バッハ ヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ集(全6曲)から3曲
通奏低音には通常チェンバロが用いられているが、オルガンが使用され奏者は若き日の名手マリー＝クレール・アランとのコラボ。
第1番口短調、第4番ハ短調は「マタイ受難曲」の名アリア「憐れみたまえ、わが神よ」の類似曲。第6番は、真ん中の第3楽章が通奏低音のソロという、シンメトリックな構成で、終曲にふさわしいト長調。
お楽しみに。

往年の女流

名ヴァイオリニストによる

演奏を聴く

日時 / 7月12日(日) 13:30~15:45

場所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 霜鳥 晃 シリーズ全18回(予定)

参加自由・入場無料

問い合わせ / 04-7184-3771 佐藤 <http://www.aafc.jp/>